

* 編集後記 *

本号は、「ジオシンセティックスのメンテナンス分野への展開」というテーマで編集を進めさせていただきました。

高度成長期時代に設けられた社会資本は経年とともに劣化し、維持管理が重要な課題となっております。また、今日は計画時には想定していなかったような気象現象により、構造物に想定外の負荷がかかるような事例も発生しております。そこでジオシンセティックスを使用することにより、社会資本の健全性を高めることで、安全・安心を提供することを目指しております。

展望では、佐藤先生に道路舗装にジオシンセティックスを活用した維持管理の効果について述べていただいております。また、技術報文では、「トンネル覆工背面の空洞に発泡ウレタンを注入充填する工法」、「ジオテキスタイル補強土壁工法の健全性診に関する取組み」、「道路の改良工事におけるジオテキスタイルの適用」、「ジオコンポジットを用いた道路陥没の対策工法の検討」をご投稿いただき、ジオシンセティックスを用いた維持管理についてご報告をいただいておりますので、ぜひ一読願いたく存じます。

末筆となりますが、台風15号の影響で多大な被害を被りました、被災者の皆様の辛労をお察するとともに、皆様の日常の早期回復を望みます。また、災害で一部使用されておりますブルーシートもジオシンセティックスの一種ですが、このような用途で使用されることのない安全・安心な社会資本にジオシンセティックスが使用されることを望みます。

本号担当：石川雅洋、内村太郎、木幡行宏

I G S 日本支部編集委員会(名簿)

委員長	木幡 行宏	室蘭工業大学大学院工学研究科くらし環境系領域社会基盤ユニット
幹事	西村 淳	三井化学産資(株) 環境資材事業部
幹事	榊尾 孝之	太陽工業(株)国土環境エンジニアリングカンパニー 技術センター
委員	内村 太郎	埼玉大学大学院理工学研究科
委員	石川 雅洋	東洋紡(株) スパンボンド事業部
委員	荻迫 栄治	清水建設(株)技術研究所
委員	片山 隆	(株)クラレ 繊維カンパニー繊維資材事業部
委員	小浪 岳治	岡三リビック(株)技術開発部
委員	高橋 真一	(株)大林組技術研究所
委員	土橋 和敬	前田工織(株)福井本社環境資材事業部水環境保全推進部
委員	原田 尚幸	(株)銭高組技術本部技術研究所
委員	山中 光一	日本大学大学院理工学部

I G S 日本支部会員現在数 (2019年7月末現在)

個人会員 190名 学生会員 9名 特別会員 19社 合計 218名

平成31年7月25日

ジオシンセティックス技術情報 (国際ジオシンセティックス学会日本支部・会誌) Vol.34, No.2
発行：国際ジオシンセティックス学会日本支部

〒112-0011 東京都文京区千石4丁目38番2号 (公益社団法人 地盤工学会内)
事務連絡：〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255
埼玉大学 工学部 環境社会デザイン学科 内村研究室内
TEL 048-858-9002 FAX 048-858-3573 E-mail secret@jcigs.org